

(別紙様式1)

## 平成28年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、 共に学ぶ生徒の育成  【めざす学校像】 ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとっては開かれた学校  【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒  【重点課題】 ・確かな学力の充実・向上 ・豊かな人間性の育成 ・信頼を高める学校づくり</p>	<p>【小中一貫教育初年度の取組】 ○行事は、ほぼ予定どおりにすすめることができた。 ○交流事業等をとおして自己肯定感を向上させ、中学校入学への不安解消につなげる事が出来た。 △小小連携・小中連携の在り方をさらに研究する。</p> <p>【確かな学力の育成】 ○京都式少人数授業を実施し、きめ細かな指導ができた。 △家庭学習習慣の定着、学習意欲向上の取組が必要である。 △教科指導についての更なる研究が必要である。</p> <p>【豊かな心の育成】 ○組織的対応により不登校生徒が減少した。 ○問題事象の暴力行為が減少した。 △不登校生徒の解消と未然防止に課題を残した。 △人権意識・規範意識の醸成に課題を残した。 △個別の支援計画による生徒への具体的な指導が必要である。</p> <p>【信頼を高める学校づくり】 ○学校公開や学校便り等で、積極的な情報発信を行った。</p>	<p>【小中一貫教育完全実施】 ・児童生徒の「自己肯定感」を更に育成する。 ・小中連携の取組内容を学園内全教職員が共通理解し、組織的・計画的に実践する。</p> <p>【確かな学力の育成】 ・教師の授業実践力の向上を図る。 ・家庭学習習慣の確立を図る。 ・総合的な学習、読書活動を一層充実させる。</p> <p>【豊かな心の育成】 ・道徳教育を根底にすえた教育活動を展開する。 ・人権及び規範意識の醸成を図る。 ・不登校やいじめの未然防止のための組織的計画的な取組を進める。 ・豊かな食生活を目指し食育を推進する。</p> <p>【信頼を高める学校づくり】 ・学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・家庭の教育力を高めるための活動を進める。</p>	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・指導方法の工夫改善により学力向上と学習意欲の向上を図る。</li><li>・学習規律を確立させると共に、家庭学習の充実を図る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・小中一貫した学習指導方法を研究する。</li><li>・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。</li><li>・週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。</li><li>・少人数授業（数学・英語）を効果的に実施する。</li><li>・校内授業研究会を実施し授業実践力を高める。</li></ul>	<p>○小中一貫教育における学習指導の取組を受け、校内授業研究会を実施し授業力の向上を図る研修ができた。</p> <p>○数学、英語の少人数授業の指導において、昨年度以上に指導をきめ細かく実施し学力向上を図った。</p> <p>○各種テスト結果をもとに本校の学力実態を把握し、学力の回復と充実のための具体的な手立てが実施できた。</p> <p>△家庭学習頑張り週間は実施できたが、年間を通しての家庭学習の指導が不十分であり改善を要する。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。</li> <li>生徒の実態を早期に把握し、問題事象発生の未然防止を図る。</li> <li>生徒の主体的な取組を進め自己肯定感を育てる。</li> <li>関係諸機関との連携を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫した指導を実施する。</li> <li>自己肯定感の向上のための指導を充実する。</li> <li>問題事象の未然防止、規範意識の醸成のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。</li> <li>不登校生徒については毎週の教育相談部会やケース会議で実態を把握・分析し、具体的な方針を立て行動する。</li> <li>全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主体的な活動を組織していく。</li> <li>警察、児童相談所等関係機関と連携を図る。</li> </ul>	<p>○全校集会での集合解散の状況や集会時の様子から、生徒の落ち着きが感じられる。今後も生徒の主体的な活動を組織的に進めることが大切である。</p> <p>○生徒への丁寧な関わり等から情報収集が早く、初期段階で組織的な生徒指導ができた。</p> <p>○関係機関と綿密な連携を図ることができた。</p> <p>△不登校生徒や不登校傾向生徒の未然防止のため、初期段階での組織的な取組が必要である。</p>
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健教育を系統的に進める。</li> <li>食育の推進を図る。</li> <li>安全意識の向上を図る。</li> <li>体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。</li> <li>教科等との関連を図った食に関する指導を推進する。</li> <li>交通安全指導を徹底する。（交通教室、PTAとの連携）</li> <li>避難訓練（地震・火災）を実施し安全意識を高める。</li> <li>教科体育指導時の安全確保を徹底させる。</li> </ul>	<p>○部活動の実施により体力の向上が図れた。</p> <p>○防災訓練を実施し、火災や地震及び不審者への安全意識を高めることができた。</p> <p>○保健指導により病気やケガへの予防意識が高まった。</p> <p>△自転車の交通マナー向上を図る必要がある。</p>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>峰山中学校区小中一貫教育実施校（愛称「峰山学園」）の機能化を図る。</li> <li>自己肯定感を育成する。</li> <li>峰中中一ギャップを解消する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての小中学校が「目指す子ども像」達成に向け、学校経営方針を共通化し、指導を行う。</li> <li>小中学校が一貫した学習指導・生徒指導等を実施する。</li> <li>児童生徒同士・教職員同士で交流の機会を確保する。</li> <li>児童生徒の教育支援環境を整える。</li> </ul>	<p>○小中一貫教育の確実な成果がアンケートの数値等に表れている。</p> <p>○一貫教育としての学力充実を図る必要があるという教員の意識が出てきた。</p> <p>△初期段階から中期段階への移行を共通理解すること。</p>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や保護者に積極的な情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育内容、生徒の活動等を保護者や地域に発信する。</li> <li>地域へのボランティア活動を推進する。</li> <li>ホームページ、学校便り、学級便り等を充実する。学校だよりは地域回覧を実施する。</li> </ul>	<p>○学校だより、ホームページでの情報発信等、広く市民へ情報を発信することができた。</p> <p>○小中一貫教育支援協議会事務局より学園の様子の情報発信がなされた。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育を計画的に推進する。</li> <li>説明会・進路相談の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験活動に基づきキャリア意識の向上と啓発を進める。</li> <li>年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。</li> <li>保護者・生徒向けの進路説明会を早期から行う。</li> <li>二者・三者面談を早期に開催し希望進路実現を図る。</li> </ul>	<p>○2年生職場体験の実施と立志式において、自分の将来への決意を持つことができた。</p> <p>○3年生は希望進路を実現させることができた。</p> <p>△学園としてのキャリア教育を推進する必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>◎峰山学園小中一貫教育が初期段階から中期段階へ向かうことを再認識し、現在までの取組の成果と課題をもとに、より一層の充実と発展を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>峰山学園の教育目標の実現と中学校独自の課題である学力向上と不登校生徒の解消、希望進路実現に向け指導の充実を図る。</li> <li>教師個々が授業力を向上させ、教科指導の充実を図り、生徒がわかる授業を実施することで生徒の居場所を確保し学力の充実を図る。</li> <li>生徒個々の状況を的確に把握し、生徒の内面を理解し、教師と生徒さらには保護者との信頼関係を築く。</li> </ol>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学習意欲を高める授業づくりの充実と家庭学習の定着 2 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上		<p>○家庭学習習慣の確立に向けた計画立てと取組が推進できた。また、全教科で言語の力を育成するための課題を提示し、学習習慣の意識化につなげることができた。</p> <p>○生徒アンケートによる「授業評価」は 25 年度→83%、26 年度→82%、27 年度→86%と継続的に高い。</p> <p>○生徒の規範意識の涵養、自他の人権尊重、社会性の育成や自己指導力を培う取組は、生徒会活動の活性化や個々の生徒の意欲の高まりとして変容が見られ、全体的に生徒は落ち着いた学校生活が送れた。</p> <p>△3 年生の不登校生徒は改善傾向であったが、家庭と一致した未来を切り拓くための意欲や自尊感情の育成には課題が見られた。</p> <p>△小中の交流・連携教育活動の充実に課題を残した。</p>	<p>1 質の高い学力の育成を図り、学力向上に向けた取組を推進させる。</p> <p>2 三年間を見通した進路学習の充実と進路を切り拓く能力の育成を図る。</p> <p>3 生徒指導を組織的に展開させ規範意識の醸成と、いじめや不登校生徒の未然防止に努める。</p> <p>4 健康や体力の向上に努めさせ、心豊かな人間性を育む。</p> <p>5 積極的な学校公開により、信頼され、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>6 人権尊重を培う教育の推進と教職員の指導力向上に向けた研修の充実を図る。</p> <p>7 小中一貫教育をはじめ、保幼・小・中・高連携の更なる推進に努める。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な学校運営の推進</li> <li>・授業規律と家庭学習習慣の確立</li> <li>・学力の実態把握と向上</li> <li>・学ぶ意欲の向上</li> <li>・思考力、判断力、表現力の育成 (言語の力、活用し発表する力)</li> <li>・人権教育と集団の育成を基盤とした学校生活の安定と活性化の創造</li> <li>・指導方法の研究と改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な学校運営の推進に向け、各分掌間の連携を強化し、教育活動の充実と活性化を図る。</li> <li>・学校経営計画を基に検証し、改善に向けた具体的な方策の確認を行う。</li> <li>・授業規律や学びの基礎力を徹底させる。</li> <li>・家庭学習習慣の定着に向けた取組を実施する。</li> <li>・全教科を通し、言語の力を育成するための授業づくりと週末の家庭学習に関わる課題を提示する。</li> <li>・生徒会活動の充実を図り、主体性を育む。</li> <li>・集会や特別活動を通して聞く、考える、話し合うことを重視し、生徒の生活改善と学校生活の活性化を図る。</li> <li>・指導力の向上を図る研修の充実を図る。</li> </ul>	<p>○教育活動全体を通し、話し合い活動や討論活動を積極的に導入し、言語活動の充実を意識した学校運営ができた。</p> <p>○校内研修を充実させるために、人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育など外部研修を伝達させ研究を推進し共通理解が図られた。</p> <p>○授業についての生徒評価は、「わかりやすい」が 26 年度 82%、27 年度 86%、28 年度 85%と継続して高い。また、総合的に見て「よい学校だ」と思うについても、26 年度 86%、27 年度 83%、28 年度 88%と高い数値で安定している。</p> <p>△学力の定着・向上に向け、授業と連動させた家庭学習の取組や少人数授業を生かした授業改善の取組を推進していく。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導体制の確立</li> <li>学級経営の充実と好ましい人間関係の育成</li> <li>規範意識の向上</li> <li>不登校の未然防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かな指導体制の確立と具体的な方策による迅速な対応を行う。</li> <li>生徒アンケートを実施し、状況把握と分析による教育相談活動を丁寧に行う。</li> <li>定期的に教育相談部会を開催し、不登校生徒の未然防止と早期対応、解消に努める。</li> </ul>	<p>○生徒の規範意識の高揚、人権の尊重、自己有用感を培う取組は、生徒同士が「協力し合い助け合えた」26年度93%、27年度92%、28年度94%と上昇し安定している。</p> <p>△「先生に気楽に相談できる」は26年度51%、27年度57%、28年度59%と低く、生徒との繋がりや教員間でのつながりを含め、相談活動を丁寧にしていく必要がある。</p> <p>△不登校生徒への対応について家庭との連携をもとに個々の生徒への目標設定や計画的な支援を推進していく。</p>
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全教育の充実</li> <li>部活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練や交通マナーなど登下校の安全を含め、安心安全な学校生活について指導し、生徒自らの安全意識を高める。</li> <li>異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち、活動することの楽しさを体得させるため、日々の部活指導を大切にする。</li> </ul>	<p>○地震・津波の避難訓練は、大宮子ども園の園児を連れて高台に避難する取組を4年間実施した。登下校路の地域清掃も行い、安全意識や豊かな心の育成につながった。</p> <p>○部活動は、「協力して目標に向かっているので楽しい」と答える生徒が26年度77%、27年度72%、28年度83%と上昇し、達成感や充実感を高めている。</p>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育総合推進地域事業の成果の継続と研究の充実</li> <li>3会議（経営会議、運営会議、教育課程会議）、3部会（学力充実部会、人権・生徒指導部会、教育支援部会）の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育、学習指導、生徒指導、キャリア教育における小中連携の研究や研修を推進させる。</li> <li>各会議や各部会の取組を通して、学園や各校の教育課題の克服を図る。</li> <li>保護者や地域に情報を発信し、広報活動を通して理解を深める。</li> </ul>	<p>○完全実施2年目を終え、3会議・3部会ともに取組内容を整理しながら進めることができた。</p> <p>○一貫性と連続性を具現化するために「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成に向けた授業研や「ことばの力」については教育活動全体を通して充実を図った。</p> <p>△小中一貫教育の手法を校内でさらに深める必要がある。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識を高める指導の充実</li> <li>学力の定着と向上</li> <li>三年間を見通した系統的、計画的な進路指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験や講話学習を実施し、進路学習の充実を図る。</li> <li>放課後の学習会と家庭学習の定着を図る。</li> <li>進路情報の収集と進路資料の活用を行う。</li> <li>計画的な二者面談、三者面談を実施する。</li> </ul>	<p>○外部講師を招聘し、学年に応じた進路学習の充実が図れた。また、キャリア教育のカリキュラムを継続させるとともに、指導資料の充実を図った。</p> <p>△計画的に学習会は実施できたが、自主的な家庭学習の定着には不十分さを残した。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の的確な実態把握</li> <li>一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の展開</li> <li>特別支援教育についての理解と認識の深化</li> <li>保護者及び関係機関との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネーターの有効活用を図る。</li> <li>個別の指導計画や教育支援計画を加筆し、作成する。</li> <li>定期的に教科部会を持ち、アセスメントによる個に応じた効果的な支援の手立てを図る。</li> <li>交流学級との連携を積極的に実施する。</li> <li>合理的配慮に関する教育内容や支援体制を確立する。</li> <li>家庭訪問や面談等を通して保護者との共通理解を図る。</li> </ul>	<p>○コーディネーターを活用し、特別支援教育に関わる教職員研修会が実施でき、本校の生徒の実態・課題を明らかにしながら共通理解を図り指導にあたった。</p> <p>△一人ひとりの生徒の教育的ニーズの明確化を図るために、定期的な教科部会等を開催することができなかった。</p> <p>△関係機関との連携を深め、支援体制を構築していく必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>人権尊重を基盤とした学校運営を目指し、人権意識の涵養・心豊かな生徒の育成を目指す。</li> <li>教育活動全体を通し、言語活動の充実を目指すとともに、質の高い学力の育成に向けた教職員研修と授業改善に取り組む。</li> <li>不登校生徒の未然防止と早期解決に向け、学校・家庭・関係機関との連携を強化するとともに、組織的な支援体制を構築する。</li> <li>小中一貫教育を校内でさらに浸透させ、教科指導力・学級経営力・生徒指導力の向上を目指す。</li> </ol>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		○学力充実の前提となる授業規律が確立でき、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができた。 ○「考えを交流する」場面でのペア学習・グループ学習を意識した授業が増えた。 ○各種学力調査において、全国・府平均を上回る結果をあげている。 ○教職員の先を見通した指導が随所ででき、学校再配置による大きな生徒間トラブルは生じなかった。 △網野学園全体で家庭学習充実の取組を行い、取組期間中は成果があったが、まだ定着はしていない。 △中学1年生の不登校はなかったが、2・3年生の不登校生徒の解消には至らず、不登校生徒の出現率が約2%となった。	1 確かな学力の向上 (1) 授業規律の確立 (2) 学びスタイルの確立 (3) 家庭学習の充実 (4) 補充学習の充実 2 豊かな人間性・社会性の育成 (1) 生徒との信頼関係の構築 (2) 組織的指導力の向上 (3) ボランティア活動の充実 3 体力の向上 (1) 積極的・意欲的な部活動への参加 (2) 新体力テストの結果を踏まえた継続的指導 (3) 安全教育と怪我等の未然防止
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	・授業規律の確立 ・基礎基本の徹底 ・活用する力の育成 ・家庭学習の充実 ・補充学習の充実	・全教員による授業開始直後の巡回指導 ・共通指導事項「これだけは！」を意識した授業づくり ・小中相互の授業参観、事前研・事後研への参加 ・週末課題の提示と「これだけは！」家庭編の周知 ・中1ふりスタ、中2学力アップ、中3地域未来塾の充実	○学校再配置2年目を迎え、昨年度以上に落ちていた環境の下で教育活動を進められた。 ○各種学力調査において、全国・府平均を若干上回る程度の学力が身についている。 ○小中相互の授業参観をはじめ網野高校との連携も進んだ。 ●学習意欲を高めることが今後の課題である。
生徒指導	・生徒との信頼関係の構築 ・規範意識の醸成 ・不登校の改善と未然防止 ・望ましい人間関係の育成と集団の質の向上 ・組織的指導力の向上	・あらゆる指導場面での「ほめる」「励ます」指導の継続 ・複数指導など「みんなで動く」指導体制の強化 ・生徒指導部会（いじめ対策委員会）、教育相談部会の定例化 ・必要に応じ校内ケース会議を開催 ・毎週月曜の「気づき」の発行による実態把握と指導の統一 ・関係機関との連携（麦わら、病院等）	○教職員の組織的な生徒指導により、規範意識の高まりが見られる。生徒間トラブルや交通事故も激減している。 ○●不登校生徒の出現率が昨年度の2.1%から1.5%に下がってきてはいるものの、依然として本校の大きな課題である。 ○毎学期いじめ調査を実施し、10件程度の報告はあるが、すべて軽微な事象で解決している。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の向上</li> <li>・安全に対する意識の高揚</li> <li>・健康教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的・意欲的な部活動への参加のための丁寧な指導</li> <li>・毎日の登下校指導、PTA登校指導</li> <li>・交通安全教室、避難訓練の実施</li> <li>・定期的な施設・設備の安全点検</li> <li>・新体力テストの分析と活用</li> <li>・非行防止教室、性に関する指導等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に部活動に参加し、丹プロ陸上・丹プロ駅伝も含め、好成績を収めることができた。</li> <li>○計画通り交通安全教室や避難訓練を行い、安全・安心への意識を高めることができた。</li> <li>●SNSの課題が大きく、3学期に2度目の非行防止教室を開催した。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織体制の再構築</li> <li>・保・幼・小・中における指導の統一</li> <li>・行動連携のさらなる充実</li> <li>・家庭、地域社会との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局体制の整備と重要課題（学力、生徒指導・不登校）に対応した組織への改編</li> <li>・共通指導事項「これだけは！」に基づいた授業実践</li> <li>・授業研究、交流行事等の計画的な実施</li> <li>・網野小中一貫校PTA及び網野学園教育応援会の設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上と生徒指導（不登校も含む）を担う部会を重点的に開催し、小中学校で連携して取り組むことができた。</li> <li>○12月には本校で市教育フォーラムを実施し、小6中学校授業体験を広く市民に見ていただいた。</li> <li>○網野小中一貫校PTAでは合同交通指導、網野学園教育応援会では行事の参観などに取り組んだ。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内体制の充実</li> <li>・障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者差別解消法に対応した体制や環境の整備</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内指導委員会の機能化</li> <li>・特別支援学級における指導体制の充実</li> <li>・通級指導教室における個に応じた指導の充実</li> <li>・個別の指導計画と支援計画の見直しと活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自閉情緒学級開設2年目となり、生徒のコミュニケーション能力に効果が表れてきている。</li> <li>○通級指導教室の個別指導が不登校の未然防止にもつながっている。</li> <li>●障害者差別解消法の校内研修は実施できなかつたが、センター研・市特研等で研修を深めた。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼される学校づくり</li> <li>・双方向の情報交流を生かした学校改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区長会、民生児童委員協議会等への積極的な啓発</li> <li>・地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応</li> <li>・ボランティア活動による地域への貢献</li> <li>・地域の教育力の活用（伝統文化体験、職場体験、外部講師の招聘等）</li> <li>・学校だよりの全戸回覧やHP等による情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度当初、区長会・民生児童委員協議会・公民館長会議などに出向き、網野学園小中一貫教育について説明・啓発できた。</li> <li>○ウルトラマラソンや松の植樹ボランティアに100名以上の生徒が参加し、地域貢献できた。同時に生徒をほめる機会にもなった。</li> <li>○保護者地域アンケートで93%が「学園は、保護者・地域への情報発信を行っている」の問い合わせに、当てはまるご回答している。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 引き続き規範意識の醸成を網野学園の重点目標に据え、落ち着いた学校環境の中で教育活動の充実を図る。</li> <li>2 小中一貫教育の手法をもとに、さらに授業改善を進め、学力の向上につなげていく。</li> <li>3 不登校生徒の未然防止と解決のため、関係機関との連携を深め、組織的に継続して取り組む。</li> </ol>		

(別紙様式1)

## 平成28年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹後中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
丹後中学校の開校3年目の教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校にする。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。		開校2年度(昨年度)は、初年度の基礎の上に、「丹後中学校としての教育」を確実にするための1年であった。生徒が主体的に学習や生活に取り組み、「本気で本物を創造する」を合言葉にして、とても良く頑張った。校風も落ち着き、しっかりしたものとなってきた。学習面での課題を更に前進させていきたい。	①開校3年目であり、教育活動の一つ一つを確認・検証しながら進めていき、生徒が輝く校風を築く。 ②小中一貫教育本実施の年であり、全教職員がその目的や目標を共有し、生徒の成長のために、具体的な取組を前進させる。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	・数学の指導の研究を小学校と一緒にになって進める。 ・言語活動を取り入れ、「ことばの力」の育成を図る。 ・基礎学力の定着を図る。	・小中一貫教育の重点教科として「算数・数学」の指導について研究し、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、「ことばの力」を育成するための授業形態を工夫し、実践する。 ・ドリルや家庭での課題学習を継続的に実施する。	○「算数・数学」を重点教科としたことにより、授業研究会での公開授業及び事後研究会が深まった。また、小学校から中学校への接続について、研修も進んだ。 ○「言語活動」を意識して授業に取り入れることにより、生徒が考えを言語化する力が高まってきた。
生徒指導	・安心できる仲間関係を築かせる。 ・新しい学校としてのルールを確認しながら定着させる。 ・SNS等の使用について、実態を把握して指導を行う。	・授業中のみならず、生徒の休憩時間も教師が教室や廊下にいるようにして、生徒の状況を丁寧に把握すると同時に生徒との関係づくりを進める。 ・月ごとの「月目標」を定め、指導の重点を確認しながら、新しい学校としての規範作りを進める。 ・「非行防止教室」を開催する。学級での指導も進める。	○生徒一人一人に目を向け、日常的に会話を大切にして信頼関係を築くことにより、生徒の居場所もでき、良好な仲間関係を築くことができた。結果、安心して学校に登校でき、不登校はほとんどなかった。 ○非行防止教室や学級指導において、SNSについて様々な事例をもとに指導を進めることができた。
健康(体育)・安全	・体力を育てることで、忍耐力などの心の強さも鍛える。その力を学習にもつなげる。  ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。	・学校として、部活動の指導を重視し、体育系のクラブだけでなく、文化系のクラブの生徒についても、体力作りを推奨していく。  ・登下校の見守り指導及び挨拶運動を展開する。  ・学期ごとに、安全な校内生活の指導を行う。	○部活動が活発になり、生徒が意欲的に活動に向かっている。体力と合わせて、心も鍛えることができた。 ○PTAの協力も得て挨拶運動を行い、生徒会の取組と合わせ小中一貫教育の共同の取組にすることことができた。挨拶への意識も向上してきた。 ○冬季の積雪時を想定して、これまでの自転車通学の状況を見直し、自転車通行が可能な歩道を通行するように指導することで交通事故を未然に防ぐことができた。

小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同の授業研究会を開催して、指導の系統性を研究する。(重点教科：算数・数学)</li> <li>・小中交流事業を通して、中学生の自覚を高める。</li> <li>・全教職員が共通理解をして、参画意識を持って取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第Ⅱ期（小学5年～中学1年）を中心に授業研究会を開催して、小学校の授業参観・事後研究会などから、中学校として指導に生かせることを学ぶ。(算数・数学が重点教科)</li> <li>・中学校の合唱祭への6年生参加や6年生部活動体験など、小学生と中学生の触れあう場面を計画的に設定して交流させる。</li> <li>・全体研修会（5月・7月・2月）などを通して、教職員の参画意識・当事者意識を高め、準備を進める。</li> </ul>	<p>○3小学校に中学校の教員が別れて算数の授業参観及び事後研究会に参加した。小学校から中学校への算数の授業の系統性や指導方法等について研修できた。</p> <p>△中学校の定期テストの期間を小学校へ出向いて授業研究会に参加したことにより、中学校教員が成績処理等に要する時間について困難な状況が出てきた。(採点等の時間がなくなった。)来年度は、改善する。</p> <p>○全体研修会や部会等を通して、小中一貫教育に対する教員の取組の意識や姿勢が向上してきた。</p>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域への学校公開や授業公開を計画的に行い、丹後中学校開校3年目の教育を理解していただく機会とする。</li> <li>・学校だよりは発行回数や配付対象が限られるので、よりタイムリーな情報として学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学校の教育活動を発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、地域の皆さんや民生委員様・学校評議員様など、多くの方に見ていただき、ご意見や感想を頂戴するようにしていく。</li> <li>・旧宇川中学校区の皆さんにも生徒の様子がよくわかるよう写真をできるだけ掲載した学校だよりやホームページの作成に心がける。</li> <li>・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えるとともに各小学校区の取組状況も把握するように努める。</li> </ul>	<p>○行事のみならず生徒の活動場面をたくさん見ていただくことができた。保護者の評価でも、学校のこの努力を評価していただく数字やことばが多く見られた。</p> <p>○小中一貫教育の完全実施の年ということもあり、「丹後学園だより」や「丹後学園ニュース」(HP用)などを多く発行して、紙面やホームページで広報することができた。</p> <p>○ホームページを見ていただくことで、学校の取組の様子のみならず、学校からのお知らせやお願いなどを広く知らせることができた。</p> <p>△ホームページを閲覧できない家庭等のことを考え、紙面での広報も大切にしていかねばならない。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性にあった支援を計画的に実践する。</li> <li>・開設2年目となる「情緒学級」の指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画・支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、適切な支援を実施する。</li> <li>・職員研修や視察などを通して、指導の充実を図り、適切な支援により、生徒の力の伸長を目指す。</li> </ul>	<p>○2つの学級の生徒が、元気に毎日学習に努力している状況をつくり出せた。</p> <p>○「自閉症・情緒学級」の3年生の生徒の希望進路実現のための取組を1学期当初から計画的に実施できた。</p> <p>△さらに充実した指導内容を考えていく必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>①今年度、小中一貫教育完全実施となり、中学校区の保育所・こども園・小学校と一緒に取組を進めることができたので、さらに内容の充実を図るために、一つ一つの取組を振り返り、目的に沿った事業となるように、検証・実践していくことが大切であると考えている。</p> <p>②生徒の落ち着いた状況の中で、さらに「生きるための学力」をどう高めていくのかについて、研究と研修を進めていきたい。</p> <p>③保護者・地域の皆様と一緒に教育を進めるために、「丹後学園教育応援会」と連携を深めて取り組んでいきたい。</p>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>1 基礎学力の定着・活用力の育成と主体的な学習態度の養成</p> <p>2 心の教育の充実による不登校の未然防止と解消</p> <p>3 小中一貫教育の推進による指導の円滑な接続の実現</p> <p>4 生徒指導の3機能を生かした積極的な生徒指導の展開</p> <p>5 安心・安全で信頼される開かれた学校づくりの推進</p>	<p>1 学力</p> <p>○基礎・基本の徹底と言語活動の充実に視点を当てた授業研究等により、主体的・協働的な学習形態の広がりを見せた。</p> <p>○各種テストにおいても十分力が発揮された。</p> <p>△2年生の家庭学習の定着に不十分さが残った。</p> <p>2 心の教育</p> <p>○校内での情報共有と連携を徹底し、3名の不登校生徒の改善を図ることができた。また、問題行動関係者の人数も減少した。</p> <p>△2年生女子の人間関係の改善が図れなかった。</p> <p>3 特別支援教育の充実</p> <p>○情緒障害の研修に重点を置き、教科担当者会を定期に実施する中で、年度後半には安定した学級経営・教科指導につなぐことができた。</p> <p>△通常の学級に在籍する特別な支援を要する生徒についての指導において、不十分さが残った。</p>	<p>1 学力の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の課題に応じた取組を展開し、中学校卒業時の「夢に近づく希望進路の実現」を目指す。</li> <li>・小中一貫教育の学力・授業づくり部会の取組の徹底を図り、連続性・一貫性のある指導を充実させる。</li> <li>・言語活動を含めた学び合いを重視する学習形態の研究推進と家庭学習習慣定着の取組</li> </ul> <p>2 不登校課題の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスの活用研究を進め、学級経営を充実させる中で生徒の居場所を安定させ不登校出現の未然防止を図る。</li> </ul> <p>3 小中一貫教育実施に向けた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢交流活動を実施する中で、豊かな人間性の育成に努める。</li> </ul> <p>4 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教育的ニーズに応じた指導を実践し、将来の生き方に関わる進路の実現を図る。</li> </ul>	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の徹底と、学力の定着につながる日常的な取組の推進</li> <li>・学習規律、家庭学習習慣の確立</li> <li>・全ての教育活動を通して学力の基本となる言語力の向上 (考えて書く実践の推進)</li> <li>・学び合いを重視する学習形態(ペア・グループ)の研究推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いを重視する学習形態(ペア・グループ)等、校内・学園内授業研究会の実施と指導方法の改善</li> <li>・各種学力診断テスト等の分析と小中連携による小中共通課題の共有と改善への取組実施</li> <li>・授業アンケートと学校生活アンケートの実施と活用</li> <li>・長期休業中と土曜活用による学力向上のための全校補充学習の実施と日々の延長補充学習の実施</li> <li>・3年生による1・2年生の延長学習時間を利用した教科学習指導の実施</li> </ul>	<p>○弥栄学園の一貫性・連続性を重視する授業づくり研究と校内の研修をリンクさせることで、言語活動の充実を図る主体的な学習活動について教員の意識を高め、実践することができた。</p> <p>○基礎・基本を大切にする取組を展開することで、各種テストで非常に高い結果を出すことができた。</p> <p>△中2調査で、家庭学習1時間以上の生徒が49%と昨年比+11%であったが、まだ不十分である。また、教科が好きという割合が低いので、工夫したい。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の3機能を生かした指導による問題行動の未然防止と不登校生徒出現防止</li> <li>・生徒間の信頼を高める取組の推進</li> <li>・教育相談体制の確立と関係機関との連携</li> <li>・部活動、生徒会活動における主体的な態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との信頼関係を構築するための活動の推進</li> <li>・校内教育相談体制の確立といじめアンケートの実施によるいじめや不登校の未然防止と解消</li> <li>・全教育活動における道徳教育の推進と、異年齢活動による自他を思いやる心の育成</li> <li>・行事等を通じた協働を大切にした取組の推進</li> <li>・問題事象に対する丁寧な事実関係の把握と早い対応を基本とした生徒・保護者への粘り強い指導</li> <li>・定例の教育相談部会・生徒指導部会の開催</li> </ul>	<p>○生徒指導・教育相談両部会の毎週開催により情報共有をして子どもたちに寄り添った指導を展開することで、問題行動の減少につながった。</p> <p>○生徒会の自主的な活動を重視する中で、自分たちを前進させようと専門部活動を活性化させることができた。</p> <p>△不登校生徒について、保護者との連携がなかなか進展せず、改善が図れなかった。</p>
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・保健教育と保健管理の徹底</li> <li>・防災意識の高揚と事故防止</li> <li>・部活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の健康観察の実施と保健指導の充実</li> <li>・薬物乱用防止教室や性に関する指導等、各学年の実態に即した保健教育を実施</li> <li>・学期ごとの避難訓練の実施と自転車点検の実施</li> <li>・早朝ランニングの確立と部活動の時間確保</li> </ul>	<p>○日々、生徒の健康状態を的確に把握し、体調不良等が長引かないように配慮した。</p> <p>○早朝ランニングに積極的に取り組む生徒が多く、基礎体力づくりを推進できた。</p>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現力の育成に視点を当てた授業研究の推進</li> <li>・異年齢交流活動による自尊感情の醸成</li> <li>・連続性・協働性を高める教職員の小中一貫教育への理解</li> <li>・小中一貫教育の地域への発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力授業づくり部会による学び合い・表現力の向上を重視した授業研究の推進</li> <li>・合同授業、合同部活動等、児童生徒の異年齢交流活動の実施による豊かな心の教育の充実</li> <li>・生徒指導（児童生徒交流）部会による望ましい学級づくりや問題行動防止の連携の在り方、共通指導内容の検討</li> <li>・教育相談部会による個人カルテの活用等円滑な接続の推進</li> </ul>	<p>○弥栄学園の学校間の距離が近いという地域性を生かし、出前授業や合同授業を展開し、小学生の中学校へのあこがれや中学生の自己有用感の醸成を図ることができた。</p> <p>○年3回の全員合同授業研究会の実施により、弥栄学園の目指す方向性を共有することができ、小中教員の協働性も高める（93.5%が肯定的回答）ことができた。</p>
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒障害についての理解の促進</li> <li>・全教職員による組織的・計画的な指導の推進</li> <li>・保護者との連携促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の教育的ニーズに応じた指導の実践</li> <li>・生徒理解・情報共有・指導方法の確認等、特別支援教育コーディネーターを中心とする組織的対応の実践</li> <li>・校内委員会の定期開催による全教職員の意識の高揚と学校全体としての支援体制の充実</li> </ul>	<p>○校内委員会の定例化により、生徒個々の教育的ニーズに応じた対応を適切に実施することができた。</p> <p>△通常の学級に在籍する生徒に対する支援を組織的に高めることに不十分さが残った。</p>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼される学校づくり</li> <li>・双方向の情報交流を生かした学校改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応</li> <li>・積極的な学校公開（各種団体との連携と協働、学校だよりやHP等による情報発信）</li> <li>・地域の力を活用した教育の推進</li> </ul>	<p>△学校側からの発信は積極的に展開できたが、地域の情報を集める動きに不十分さが残った。なかなかゆっくりと構える時間が持てなかった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校課題の改善、自己肯定感の醸成を図るために、すべての教育活動において生徒指導の三機能を生かした指導を展開していくことが大切であると考える。小中一貫教育の推進においても、こども園・小学校と連携する中で、社会的自立を目指す視点を大切にして保護者との連携も図っていきたい。</li> <li>・来年度は1・2年生の2学年において学力課題が顕著である。夢に近づく希望進路の実現を目指して、計画的なキャリア教育を展開していきたい。そして、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す学習活動の展開を図る中で、生徒の自ら学ぶ意欲を引き出し、安定した家庭学習習慣を確立させたい。</li> </ul>		

(別紙様式1)

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のこと が当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」 を大切にする学校を目指す。</p> <p>○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に 活かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りな がら系統的に実践を積み上げる。</p> <p>1 生徒の自尊感情を高め、望ましい人間関係 を構築する。</p> <p>2 基礎基本の定着を中心に据えた総合的な 学力向上策を共通理解させ、職員みんなで取 り組む。 　△授業規律の確立 　△小中共通の授業構造による授業改善と 　　言語活動の充実</p> <p>3 「学校・地域連携推進協議会」を立ち上げ、 　新たな仕組みを機能化することで久美中 　教育全体を充実させる。</p>	<p>○学校再配置後3年が経過し、新生久美浜中学校としての 　学校文化を創造することができた。</p> <p>○問題事象の把握並びに指導内容や指導方法の確認等、組織的 　に取り組むことで対応が的確になり、みんなで動けるようにな 　った。</p> <p>○「夏みかんの日」の取組を充実させ、生活を振り返らせ 　たことで集団が前向きになった。</p> <p>○本校生徒会と小学児童会が協働で「あいさつ運動」に取 　り組み、小中連携並びに小小連携を活性化させた。</p> <p>△家庭学習の習慣（1時間以上）が身に付いておらず、各 　種テストにおいて全国・府平均を下回っている。</p> <p>△校内授業研や公開授業により、特に若手教員の授業改善 　意欲は一定高まったが、全体の意識の変革までは至って 　いない。</p> <p>△特別な支援を必要とする生徒について、有効な手立て等、 　個別のデータは蓄積しているが、校内委員会を機能させ 　た組織的な指導はできていない。</p>	<p>【法やルールに関する教育の推進】 　=【人権教育・道徳教育・特別活動の充実】 【3つのキーワード】 　「人の話を聞く」「考える」「表現する」</p> <p>1 課題や具体的方策の明確化と進行管理 (1) 課題 　ア 規範意識の醸成 　イ 学力向上 　ウ 不登校生徒の解消 (2) 指導の重点 　ア 徹底した実態把握と共通理解、組織的な課題解決 　イ 授業のUD化と生徒指導の3機能を活かした授業 　　改善、学習意欲の高揚</p> <p>2 開かれた学校づくり (1) 地域の特性を活かした総合的な学習の時間の充実と 　　人づくり (2) 地域や保護者への情報発信</p>	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 生徒や地域の特性を生かした 教育課程の編成 2 授業実践力の向上 3 言語活動の充実 4 学習習慣の確立	△介護体験（3年生全員）の導入、各体験学習の充実 △丹後学モデルカリキュラムの活用 △小グループ（異年齢も含む）を活用した言語活動の充実 △校内授業研（3回）：生徒指導の3機能を活かした授業 △公開授業（2回）：内1回は法やルールに関する教育 △家庭学習アンケート △家庭学習の仕方の指導 △久美中ドリルの工夫改善 △中1ふりスタ、中2学力アップ、地域未来塾の活用	<p>○総合的な学習の時間では丹後学モデルカリキュラムを 　活用し、地域の特性を生かした典型をつくることができた。 　（1年：地域学習 2年：職場体験学習 3年：福祉体 　　験学習）</p> <p>○授業参観週間や校内授業研を通して、言語活動に係る 　工夫や授業改善の意識が高まった。</p> <p>○家庭学習について、実態に応じた取組を工夫するこ 　　とができる。（自主学習ノートの奨励、全校2ページ学習、 　　異年齢による教え合い学習）</p> <p>△2年総合に「立志式」を取り入れ、生き方に繋げる。</p>

生徒指導	1 法やルールに関する教育の推進と人権・規範意識の醸成 2 いじめの未然防止と解消 3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4 不登校・不登校傾向生徒の未然防止と解消 5 関係諸団体との連携強化	◇生徒とのふれ合い、話しこみ ◇組織的な対応：みんなで動く、複数指導 ◇徹底した事前指導：学校行事前、生徒会活動前 ◇「はあとほっとタイム」：学期1回 ◇携帯教室（情報機器の安全な取扱い）：生徒、久美浜学園P.T.A ◇主要部会の定例化：生徒指導（いじめ対策）、教育相談、特別活動 ◇「気づき」「今週の気になる生徒」の発行 ◇麦わら、病院、S.S.Wとの連携	○関係部会（生徒指導、教育相談、特別活動）を定例化し、職員全体で確認しながら丁寧に進めることで、概ね組織を意識しながら動くことができた。 ○「夏みかんの日」の取組を充実させ、生活を振り返らせてすることで集団が前向きになった。 ○麦わら等と連携することで、不登校生徒に自分をふり返せることができ、学校への登校日数が増加した。 △ほっとタイムを充実させ自己肯定感を高める。
健康（体育）・安全	1 部活動の充実と達成感の享受 2 緊急時対応訓練の充実 3 食育指導の充実 4 交通安全指導の徹底と健康教育の充実	◇緊急時対応訓練 6月：火災、11月：不審者、3月：地震 ◇公開授業：食育指導と保健指導との連携 ◇自転車（安全）指導、薬物指導、生命のがん教育（7/7）性に関する教育	○命に係る指導を計画的に実施し、生徒のふり返りを促した。（食育：食の安全・朝食、生命のがん教育、薬物指導、性に関する教育、自転車安全指導、防犯教室等） ○学期に1回（7月：火災、12月：地震、2月：不審者）緊急時対応訓練を実施し、基本対応への周知を図った。
小中一貫教育の推進	1 研究組織の再構築 2 小中連携、小小連携の充実 3 行動連携の充実 4 久美浜学園P.T.Aの連携強化	◇小グループを活用した言語活動の充実 ◇小中共通の授業構造による授業改善 ◇公開授業：「法やルールに関する教育」、教科 ◇あいさつ運動（児童生徒）：小中・小小連携の充実 ◇携帯教室（児童生徒、久美浜学園P.T.A）	○「情報機器の安全な取扱い」に特化した授業を小4児童と中学生に行った。また、保護者対象講習会も実施することで、危険性の認識が深まり、トラブルが減った。 △法やルールに関する教育について、指導案づくりは一定進んだが、指導内容と方法の工夫、検証が必要である。
特別支援教育	1 校内体制の充実 2 障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進	◇コーディネーターによる生徒支援校内委員会の機能化 ◇特別支援教室構想に基づく支援 ◇実態把握：アセスメント票、個別の指導計画・支援計画 ◇個別データの蓄積：発達障害をもつ生徒、有効な手立て ◇情緒学級等における授業内容及び指導方法の工夫改善 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇連携強化：保護者、教師間（教科担当等）、関係諸機関（病院等）	○定期的に授業交流等をすることで個別の課題が明確になった。また、担任と生徒・保護者との丁寧な懇談により、その時にできる手立てを講じることができた。 △特別支援教育コーディネーターの研修を充実させ、役割を明確にして校内委員会を機能化させる。 △より綿密な連携が必要である。（教科担当者間、担任と保護者、学校と関係諸機関）
開かれた学校づくり	1 信頼される学校づくり 2 双方向の情報交流を活かした学校改善	◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇たより、H.P等による情報発信（学校・久美浜学園） ◇学校・地域連携推進協議会の設立と機能化	○特に生徒指導では誠実・迅速・丁寧な対応と組織的な指導により、一定の信頼を得た。 ○民生児童委員会や区長会、地域活性化協議会等において、久美浜学園小中一貫教育の取組が概ね支持された。
次年度に向けた改善の方向性	○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、系統的に実践を積み上げる。 （1）授業改善（基礎・基本の習得・定着と言語活動の充実） （2）法やルールに関する教育の充実（授業規律の確立、道徳・人権教育の充実、情報機器の安全な取扱い） （3）望ましい人間関係の構築と自尊感情の高揚、不登校（傾向）生徒の解消		